令和６年度小林市立紙屋中学校の教育（学校経営ビジョン）

学校教育目標「自己を鍛え、心豊かで、自信をもって行動する児童・生徒の育成」　　校訓・めざす生徒像「克己・敬愛・創造」

学 校 経 営 目 標 　生徒を大切にし、誰一人取り残さない教育～No one will be left behind～」

学校経営の基本理念　学校を運営する教職員一人ひとりを大切にし、 学び続けながら強みを発揮できる「チーム紙屋」を中心として、生徒を愛し、保護者に寄り添う教育活動を展開することで、地域社会に貢献し、魅力を発信し続けることのできる学校を創る。

①「自立(自分で生きる力を身につける)と自律(自分の意志をもって行動する)を意識した教育」⇒徳育（生徒会の主体的な活動）、食育（命を守る防災教育）

②「ダイバーシティ＆インクルージョン（多様性を受け入れ、個を伸ばす）を意識した教育」⇒知育（個別最適な学びと協働的な学び）、徳育・体育（いじめのない仲間づくり）、徳育（ST：ソーシャルスキルトレーニングによる社会性・協調性の育成）

③「ウェルビーイング（精神的にも肉体的にも社会的にも全てが満たされた状態）と心理的安全性（自分の意思を安心して表明できる）を意識した教育」

⇒全教育活動を通して（行事計画案等での関連指導事項〈、、、、、〉やねらいの明記、学期ごとの生徒向けアンケート、学校評価等）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 知育　確かな学力の育成 | 徳育　豊かな心の育成 | 体育　体と健康の育成 | 食育　命の尊さと食育の推進 |
| 生徒一人ひとりの学力や個性を把握し、個の良さを伸ばし協働的に関わり合いながら、主体的に学ぶ生徒の育成 | 互いの個性を認め合い、思いやりの心をもち広い視野をもって社会に貢献できる生徒の育成 | 自立と自律を意識し、自らを鍛え互いに高め合い、心身の健康を保とうとする生徒の育成 | 食につながる人や環境への感謝の気持ちをもたせ、あらゆる命を大切にしようとする生徒の育成 |
| (1) ESDの視点に立った学習指導や学校行事の計画  (2) テストに向けた計画的な学習指導  (3) 個別最適な学習と協働的な学習の融合を図るＩＣＴ機器の活用  (4) 家庭と連携した効果的な家庭学習の推進 | (1) 複数指導体制での心の教育の実施  (2) ST(ソーシャルスキルトレーニング)による社会性・協調性の育成  (3) 地域との連携を図ったボランティア活動や花づくりの充実  (4) 主体的な生徒会活動（自立と自律、ＳＤＧｓの達成に向けた取組等） | (1) 新体力結果に基づく個別の体力水準の向上  (2) 虫歯治療率７５％以上、給食残食・朝食欠食ゼロと適正体重の維持  (3) 立腰での精神バランス感覚向上  (4) いじめのない仲間づくりの推進  （みんなで遊ぶ日・縦割り花壇活動等） | (1) 命を大切にする安全教育の充実  (2) 弁当の日の充実と食育の推進  (3) 田植え・稲刈り体験による「食」への感謝の気持ちの育成  (4) 自分の命を守る力を育成する防災教育の充実 |

令和６年度　循環型社会を実現する環境教育推進事業に関する取組

基本構想　ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の視点に立った教育活動の実践（７つの能力・態度の育成）

　　　　　＊以下は、ESDで培いたい６つの価値観（文部科学省「持続可能な開発のための教育（ESD）推進の手引」より）を基にした、紙屋中での取組案です。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 多様性を育む実践 | 公平性を育む実践 | 相互性を育む実践 | 連携性を育む実践 | 有限性を育む実践 | 責任性を育む実践 |
| ・校則検討委員会での多  様性に応じた校則の改訂  ・台湾との国際交流活動 | ・教科や生徒総会等でのディベート活動の実施 | ・紙屋タイム（仮称）での  コミュニケーション活動  （ST）に基づく活動 | ・「人権の花」運動や紙屋一徳会と連携した花作り  ・地域、保護者と連携した防災（引き渡し）訓練 | ・地域と連携した４R活動の推進 | ・生徒会活動や学級組織  を通したリーダー育成 |

職員の人材育成　①働き方改革推進（校時程改革）②S＆R（スクラップ＆リノベーション）会議（企画委員会）③１人１研修（校外研修参加・校内研修実施）制度